

9-5 「声道音響理論」

三木信弘、吉川英一(はこだて未来大・システム情報)、元木邦俊、松崎博季(北海学大・工)

3次元声道モデルの音響解析を有限要素法(FEM)とモード展開法により行っている。声道断面積関数のみでは表現できない声道の”曲がり”や断面の”形”が声道伝達特性に与える影響について報告する。

楕円管声道近似のFEM用メッシュ生成法について報告する。肺と気管の音響特性を組み込んだ時変の声門デジタルフィルタの実現法による声道シミュレータを開発している。瞬時ごとの声道の状態量を表示する例等を報告する。

9-6 「言語情報・パラ言語情報が音声の生成に及ぼす影響」

前川喜久雄、籠宮隆之(国語研)、呉田陽一、伏見貴夫、辰巳 格(老人研)

言語情報(語の音韻的構造)とパラ言語情報(話者の意図や態度)が発話のプランニングにおよぼす影響について検討した。言語情報については、音韻構造と発語潜時の関係を検討した結果、語末のbi-moraの頻度が発語潜時に影響することが老人研グループによって確認された。パラ言語情報については、韻律情報の他に分節音の調音にもその影響が及んでいることが国語研グループによって確認された。